



特定非営利活動法人 土佐山アカデミー
平成24年度 10月～3月 活動報告書

地域で学び、地域で創る。

土佐山アカデミーは、豊かな自然とそこに寄り添って生きる人々の営みが残る土佐山地域をフィールドに、自然と調和した豊かな暮らしのあり方を学び、実践しながら、それぞれがこれからの社会のあり方を思い描き、行動していくための力を養っていく学びの場です。



PROGRAM 2012/13冬期プログラム一覧



伊藤 洋志
講演会＋ワークショップ

自分
で
仕事
を
つ
く
る
方
法



未来のある仕事をつくる。

「ナリワイをつくる」人生を盗まれない働き方、著者、伊藤洋志さんをお招きして、講演会＋ワークショップを開催いたします。

今の仕事は十年後大丈夫かな？
など今の働き方に違和感のある方、必見です。

2012年11月3日(土)
講演会 / 10:00～12:00 (9:30 開場)
ワークショップ / 13:30～16:30

ところ：土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ
参加費：講演会のみ / 2,000 円 (学生は 1000 円)
ワークショップのみ / 4,000 円 (学生は 3000 円)
両方参加 / 5,000 円 (学生は 3500 円)

主催：NPO 法人 土佐山アカデミー

<http://tosayamaacademy.org>

そもそも仕事は自分でつくるものだった。

大正9年の国勢調査で申告された職業は約3万5000種、現在の厚生労働省の「日本標準職業分類」によれば、いまや2167職種、わずかに90年程度前には、はるかに多様な職業があったそうです。これはわずかな時間で急激に仕事の多様性を失った私たちの社

仕事も、ほしい物も、自分でつくるのは面白い！

実はこの2010年代というのは間に仕事は自分でつくるのが当たり前になった時代です。いま未来が見えてくる仕事は全ては与えられた仕事ではなく、各自が作ってきた仕事なのです。実は2010年の必要数の高い仕事の上位10位は、2004年にはまだ存在していませんでした。つまり自分で作ってきた仕事です。かつよい言い方では、未来の仕事、今や個人が低コストで使えるインフラが充実してきて一見35の年齢に届くまでも驚かすものが増えてきています。つまり、各自が自分で考えて仕事をつくるというシステムになってきたということです。[自分の未来を自分でつくる]というテーマで、しなやかに生き、多様な働き方(「ナリワイをつくる」)の著者である伊藤さんと一緒に、具体的なナリワイ(仕事)のタネを見つける少人数制のワークショップを開催します。



伊藤 洋志

1979年生まれ、香川県丸亀市育ち。京都大学大学院修了、大小様々な仕事を組み合わせて生計を建てるナリワイ実践者。大学在籍時に、全国の職人さんの見習いをしながら、弟子の技能の身につけ方と独立生計の建て方を調査。手仕事一本ではなく、農業や素材栽培も含め生業を営む染織工房が、いきいきと仕事をしている様子を見て、専業よりも複業的生活の可能性を感じる。大学院卒業後、ベンチャーに参加。就職サイトや雑誌を立ち上げるも、肌荒れのため退職。2007年より、個人が小さい元手ではじめられる頭と体をつかう仕事をテーマにナリワイづくりを開始。現在、シェアアトリエ「スタジオ4」や、京都の一棟貸し宿「古今燕」などの運営、「モンゴル武者修行ツアー」、「熊野暮らしデザインスクール」などのワークショップを企画する他、自由大学で講義を担当(不定期)。著書に「ナリワイをつくる」。

こんな方に特にオススメです！

自分で遊びを考えるのが得意な方、自己犠牲ではない社会貢献をしたい方、自分で仕事をつくりたい、起業したい方、会社員生活に違和感を感じている方、10,20代の未来に不安を感じている方、自己アピールが苦手、「セルフブランディング」なんてできないという方、就職活動に行き詰っている学生の方など。

こんな方には役に立っていかいも・・・

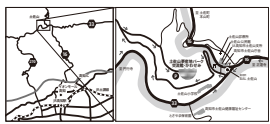
起業したい方、元手も少なくして大儲けしたい方、親戚や社会的ステータスを重視する方、いきなり年収を上げることに興味がある方、不労所得を得たい方、「すべく」という言葉が好きの方、これらの方にはお役に立てない可能性があります。

当日のスケジュール：
講演会 / 10:00～12:00 (9:30開場)
ワークショップ / 13:30～16:30 ※定員15名

参加費：
講演会のみ参加 / 2,000 円(学生1000円)
ワークショップのみ参加 / 4,000 円(学生3,000円)
全日参加 / 5,000 円(学生3,500円)

応募方法：
[お名前 / 電話番号 / ご住所 / 参加コース]をお伝えの上、
メール: contact@tosayama.org / 電話: 088-895-2033
(平日 8:30～18:00)にてお申し込み下さい。
※お支払額・参加人数は、キャンセルの受付日込み、参加に当たってご質問・ご疑問のみに応じます。参加費は、振替または現金で支払ってください。

締めの切：
定員に達し次第締め切りとさせていただきます。お問い合わせ下さい。



2012年11月3日(土)
講演会 / 10:00～12:00 (9:30 開場)
ワークショップ / 13:30～16:30

ところ：土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ
主催：NPO 法人 土佐山アカデミー
お問い合わせ： contact@tosayama.org
088-895-2033
<http://tosayamaacademy.org>

自分で仕事＜ナリワイ＞をつくる方法

開催日時：平成24年11月3日(土) 9:30～11:30(講演会) / 13:30～16:30(ワークショップ)

開催場所：土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ

参加人数：56人(講演会とワークショップの参加者の合計)

講師：伊藤 洋志

1979年生まれ。香川県丸亀市育ち。京都大学大学院修了。大小様々な仕事を組み合わせて生計を建てるナリワイ実践者。大学院在籍時に、全国の職人さんの見習いをしながら、弟子の技能の身につけ方と独立生計の建て方を調査。手仕事一本ではなく、農業や素材栽培も含め生業を営む染織工房が、いきいきと仕事をしている様子を見て、専業よりも複業的生活の可能性を感じる。大学院卒業後、ベンチャーに参加。就職サイトや雑誌を立ち上げるも、肌荒れのため退職。2007年より、個人が小さい元手ではじめられる頭と体をつかう仕事をテーマにナリワイづくりを開始。現在、シェアアトリエ「スタジオ4」や、京都の一棟貸し宿「古今燕」などの運営、「モンゴル武者修行ツアー」、「熊野暮らしデザインスクール」などのワークショップを企画する他、自由大学で講義を担当(不定期)。著書に「ナリワイをつくる」。

内容：

大正9年の国勢調査で申告された職業は約3万5000種、現在の厚生労働省の「日本標準職業分類」によれば、いまや2167職種。わずか90年程度前には、はるかに多様な職業があったそうです。これはわずかな時間で急激に仕事の多様性を失った私たちの社

会状況の一面であり、「仕事」という概念を根底から考えなおす事が求められています。

ベストセラーである「ナリワイをつくる」の著者であり、一つの職業だけではなく複数の「ナリワイ」を創り出し、仕事とともに人生を豊かにする、という全く新しいライフスタイルを提案・実践している伊藤洋志さんをお招きしての講演会とワークショップを開催しました。

午前中に開催された講演会では、伊藤さんがこれまで創出してきた、モンゴル武者修行ツアーや廃校を利用したウェディング・プランなど、数多くの「ナリワイ」の実践例を紹介して頂き、これからの働き方を考えるきっかけを、幅広い方々を対象に提供。しなやかに生き、矛盾なく働く、という伊藤さんのナリワイに対する哲学と数多くの実践例は、現在の働き方に疑問を持つ多くの人の心に響いていたのではないのでしょうか。

午後のワークショップでは、15名程の少人数の参加者の皆さんとともに、実際にナリワイの種を見つけ出していく事に取り組みました。広島や岡山から来られていた参加者の方がいたり、学生から会社の経営者まで、本当に多様なバックグラウンドを持つ方々が集った事が、このワークショップの一番の特徴だったように思います。それだけ「仕事」や「働き方」に対する関心が高いという事の現れでしょうか。ここに集ってくれた皆さんの一人一人が、具体的な自分なりのナリワイ、を生み出すために真剣に知恵を出し合っていた事がとても印象的でした。



講演会の様子



ワークショップの様子

土佐山の様な中山間地域における、新たな仕事や働き方の創出、は課題であると同時に、今後の社会の方向性を決定づけるような新たな価値観の創出のチャンスでもあると言えます。今回開催したようなワークショップを単発で終わらせるのではなく、今後も継続的にこうした機会を設ける事によって、ここ高知における全く新しいナリワイの創出に寄与できればと思います。

匂いのハンティングロードを巡る -匂いは、なぜ生物にとって必要か-

開催日程：平成24年11月17日 9時～11月18日13時

開催場所：土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ／菖蒲ふれあいの里

参加人数：22人（講演会とワークショップの参加者の合計）

11/17(土)：

匂いの生物学《森の生態を知る》森のガイドと一緒に、匂いのトレッキング

匂いの化学《匂いを抽出する》抽出師に習う（制作ワークショップ）

匂いの人類学《ジビエ料理づくり》ジビエ料理を山師と楽しむ（料理）

11/18(日)午前10時～：

匂いの情報学《匂いのコミュニケーション》研究者に学ぶ

「匂いは、なぜ生物にとって必要か。」

トークセッション：奥野克巳氏（文化人類学者）× 山本美広（匂いの抽出師）

講師：山本 美広 <匂いの抽出師>

San Francisco art institute BA卒業。Chelsea college of art and design MA修了。卒業後帰国し、ゲーム会社・TV制作会社の映像ディレクターとなる。同時に、97年よりデジタル産物の「無臭さ」に疑問が沸き、匂いの研究を始める。12年後、香料会社に勤務。お香、SPプロダクトデザイン、香料開発を学ぶ。香料や映像のコピーペーストのモノづくりに嫌気がさし、都会生活に別れを告げ3ヶ月間、南米の旅に出る。そこから得た「豊かなくらし」とは何か？をテーマに2010年より高知と京都を行き来し、農家、

講師の山本美広さんの持つ、匂いを抽出する、という専門的なスキルと、土佐山の自然やそれを知り尽くしている地域の方々が、見事に融合した企画だったのでは無いでしょうか。嗅覚を通して自然を感じてもらう、という視点も非常に面白く、全く新しい自然の学び方、楽しみ方を提示できたように思います。

参加者の皆さんにとっては、自分で採取した植物からオリジナルのエッセンシャル・ウォーターを抽出できるという事は非常に新鮮で、最初一滴が出てきた瞬間に歓声があがっていた事が印象的でした。やはり、自分の手を使って、ものづくりに取り組む、という事は人間にとっては、根源的な体験であり、質の高いものづくりワークショップに対するニーズの高さも垣間みる事が出来ました。

また、人と動物の関係性や、山の暮らしと狩猟に関する民俗学の研究者である、奥野先生は、東南アジアを含め様々なフィールドを熟知しており、山と狩猟のプロとも言える存在でした。そんな先生に土佐山の山々に入ってもらい、文化人類学的な観点から、山の暮らしについて検証して頂いた後、ワークショップの参加者とともに意見交換をすることは、普段とは違った視点で山を考えることのできる、大変良い機会を提供する事につながったと感じます。総じて、非常に濃い内容であった二日間。参加者の満足度も高く、今後の更なる展開への可能性を感じさせるワークショップとなりました。



ワークショップの様子



地域の方々と懇親会

食と地域の未来を考える三日間 <生姜大収穫祭・ワークショップ> in 高知・土佐山

開催日程：平成24年11月23日(金・祝)・24日(土)・25日(日)

開催場所：土佐山産地パーク交流館・かわせみ／菖蒲ふれあいの里

参加人数：13人

講師：ggg(go! ginger girls 嶋田 葉子・白水 サチヨ)

嶋田 葉子

旬の素材を使った料理研究やケータリングを行う、「labo85」主宰。国内海外のオーガニックレストランでの調理やケータリング、インテリアショップでの勤務を経て現在に至る。期間限定カフェやレストランメニューの開発など国内、海外問わず幅広く活動。2010年『朝昼晩しょうがレシピで冷えしらず こんなに使えるジンジャーシロップ』を出版。

白水 サチヨ

9年間懐石料理屋で接客と作法を教える接客主任として勤務。その後、布に興味をもちバッグ等を制作販売。オリジナリティを求め生地を織りはじめる。「土佐山ジンジャーエール」に惚れ込み、現在は東京販売責任者として、土佐山有機生姜を広めるべく、Farmer's Market@UNU にて販売活動中。

内容：

生姜の生産量が全国で最も多い高知県の中でも、完全無農薬で生姜を育てる数少ない生産地の一つ土佐山。ここ土佐山で生産される、秋の有機生姜の収穫シーズンに合わせ、収穫から、ジンジャーシロップづくり、そして地域の方々も交えての郷土料理ワークショップまで、たっぷりと生姜を味わって頂く、三日間のワークショップを開催しました。

生姜は色んな場面で料理に使用され、ファンも多い食材ではあるのですが、どのように栽培されているのかを知らない人も多いようです。この生姜の良さを存分に味わって頂き、収穫から加工までを一通り学んでもらおうと企画。実際に畑に出ての収穫作業では、掘り出された生姜を見て、参加者の皆さんがその大きさに驚いていたのが、とても印象的でした。掘り出された生姜を保存する、洞窟を利用した「生姜つぼ」の見学や、作業の合間の青空の下でのお昼ご飯、そして料理のワークショップと、生姜という素材の様々な活用方法を学んで頂きました。

今回講師としてお招きした、gggのお二人には、日頃より土佐山の有機生姜の加工や販売に協力してもらっており、今回もオリジナルのジンジャーシロップという、生産地の視点とはまた違った活用法を提案してくれました。そうした新しいアイデアを紹介し、生産地の方々とのつながりを築いていく事も土佐山アカデミーの役割の一つであると感じています。

地域の方々も交えての懇親会では、三日間という短い滞在期間ではありながら、地元の方々との親しい交流も経験して頂き、土佐山という地域の魅力を十分に堪能してもらえたのではないかと思います。

普段はスーパーなどで小分けにされた状態で売られている生姜が、どんなところで、どんな風につくられているのかを学んでもらった事で、主に都市で生活する参加者の皆さんの日常生活と、土佐山のような生産地での暮らしとのつながりを、これからはより身近に感じてもらえるようになったのではないのでしょうか。



生姜つぼを見学



ジンジャーシロップ/調理ワークショップ



地域の方々との懇親会

雑貨具を作ろう!木を使ったモノ作り・ワークショップ

開催日時:平成24年12月9日(日) 10:00~16:00

開催場所:土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ

参加人数:24人

講師:足利 成

日本、フランス、韓国、カナダで約200棟の建築に関わり、家造りを150人以上に教える。考え方を大事にした建築、何のために建てますか?そこでどのような生活をしますか?等をもとに、形、技術を考えていく家造りを実践。高知市内に自宅もセルフビルドし、2012年には3軒のカフェのオープンを手掛ける。住む人が主役の街づくり、高知パリ化計画を提唱中。



内容：

ふだん使う暮らしの道具を自分で作ってみる、という事をテーマに、家具作りに取り組むワークショップを開催。今回は、組み合わせ次第で、椅子にも台にもなる一脚二役のオリジナル家具作りにチャレンジしました。

講師の足利さんは、本当に心地いい家づくりや街づくりをしていくために、まずは本物に触れながら、自分の手でモノ作りをする事を提案し、建築家として活動されています。

ワークショップは、用意された木材に寸法どおりに線を引き、それに合わせて各部品をねじ止めしていく、という作業を軸に進められました。普段からこうした作業をしている方から、初めての方まで、幅広い参加者層でしたが、皆さん、手を動かしてものをつくる、という時間を存分に楽しまれていました。自分の手を使って作る体験は、経験になり、知恵になり、次なるひらめきにつながっていく、というものづくりの本質を伝えられるワークショップになったのではないのでしょうか。まずは身近な家具作りからはじめ、木の使い方やモノ作りの経験と知恵を積んでいけば、ゆくゆくは自分の家も手作りでできるかも知れません。



ワークショップの様子

里山を食す・収穫のある暮らし・<お正月準備&保存食編>

開催日時：平成24年12月15日(土) 10:00～15:00

開催場所：土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ／菖蒲ふれあいの里

参加人数：16人

講師：織田 潔

多国籍料理SO-AN店主。幼少時代より祖母のレストランを手伝い、10歳で料理人になりたいと考え始める。20代に“おむすびのよこやま”“草や”創始者の横山礼子氏に師事、料理を学ぶ。鏡川沿いの古民家を改装しオープンしたレストランSO-ANでは、豊富な海外経験を活かした多種多様な調理法と地元ならではの食材を組み合わせ、素材本来の味を引き出す料理が人気。料理に使う野菜や魚介類を現地から調達するなど、素材選びから気持ちを込めたもてなしを心掛ける。

土佐山アカデミー ワークショップ

里山を食す

収穫のある暮らし 〈お正月準備＆保存食編〉

季節の恵みをいただく、里山からのおすそ分け。

講師
多国籍料理SO-AN店主
織田 潔

2012年12月15日(土)
10:00～15:00 (ランチ付き)
集合場所：土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ
(高知県高知市土佐山桑尾1856-1)
会場：土佐山蕎麦ふれあいの里
参加費：3,500円
(ランチ代込み、干し鮎と柚子みそのお持ち帰り付き)
主催：NPO法人 土佐山アカデミー

TOSAYAMA ACADEMY

土佐山、そして鏡川の晩秋の恵み、
柚子やおち鮎を使った、保存食とお正月料理づくり。

源流域の自然の恵みをたっぷり堪能しながら、ちょっと特別なお正月準備をしてみませんか？

講師は鏡川のほとりの古民家で、多国籍料理SO-ANを営む織田潔さん。その土地ならではの素材を活かした料理には、数多くのファンがいます。季節の素材で食卓を彩るコツを教わり、美味しいランチで自然の恵みをじっくりと味わいながら、収穫のある暮らし、季節の旬をいただく食を体感してください。

料理ワークショップ＆里山ランチ

干し鮎お出汁のお雑煮
晩秋の頃、産卵のために川を下ってきたおち鮎で作る干し鮎からは、旨味が詰まったとびきりのお出汁が取れます。土佐山の有機野菜と杵付き餅を添えてお雑煮に。お正月用に鏡川の鮎でできた干し鮎をお持ち帰りいただけます。

絞りに柚子酢の正月祝い寿司
ワラビ、椎茸、竹の子... 里山の山菜や野菜を、絞りにたての柚子酢や有機生姜、土佐ジロー卵で祝い寿司にします。

柚子みそ作り
さわやかな香りの柚子みそは、ふるさとお餅や漬物にぴったり。土佐山の柚子で作る柚子みそ、できあがりはお持ち帰りいただけます。

手作り柚子ぽんず
絞りにたての柚子酢と塩で作るオリジナルの柚子ぽんず。冬のお餅を一段と美味しく引き立てる特別レシピを伝授します。

講師プロフィール
多国籍料理SO-AN店主
織田 潔 (和名：きよみ)
幼少時代より祖母のしんちゃんを拝見し、10歳で料理人になりたいと考える。20代に「おむすびのよこやま」で、創業者の橋山礼子氏に師事。料理を学ぶ。鏡川沿いの古民家を改装しオープンしたレストランSO-ANでは、豊富な海外経験を活かした多種多様な調理法と地元ならではの食材が融合した、季節の味を演出する料理が人気。料理に使う野菜や魚介類を現地で調達するなど、素材選びに気遣いを込めたお料理を心掛ける。

日時：2012年12月15日(土) 10時～15時 (ランチ付き)
集合：午前10時 土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ (高知県高知市土佐山桑尾1856-1)
参加料：3,500円 (ランチ代込み、干し鮎と柚子みそのお持ち帰り付き)
定員：20名
応募方法：[お名前] / [ご連絡先] / [ご住所] をお添えの上、下記連絡先までお申し込み下さい。
※お申し込み人数は、お申し込みの順に、定員に達するまでとさせていただきます。定員に達したら、お申し込みは終了となります。
締め切り：定員に達し次第締め切りとさせていただきます。お問い合わせ下さい。

TEL: 088-895-2033 MAIL: contact@tosayama.org
(平日 9:00～18:00)

2012年12月15日(土)
10:00～15:00 (ランチ付き)
集合場所：土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ
(高知県高知市土佐山桑尾1856-1)
会場：土佐山蕎麦ふれあいの里
主催：NPO法人 土佐山アカデミー
<http://tosayamaacademy.org>

土佐山アカデミーは、自然と調和した豊かな暮らしと社会のあり方を形にするために、新たな出会いやアイデアを生み出す学びの場です。

内容：

鏡川のほとりの古民家で、多国籍料理のお店「so-an」を営む織田潔さんを講師としてお招きし、季節の素材で食卓を彩るコツを教わり、美味しいランチで自然の恵みをじっくりと味わいながら、収穫のある暮らし、季節の旬をいただく、食を体感してもらうためのワークショップを開催しました。

お正月に向けての準備という事で、今回取り組んだメニューは以下の通り。

「干し鮎お出汁のお雑煮」

晩秋の頃、産卵のために川を下ってきたおち鮎で作る干し鮎からは、旨味が詰まったとびきりのお出汁が取れます。土佐山の有機野菜と杵付き餅を添えてお雑煮に。お正月用に鏡川の鮎でできた干し鮎をお持ち帰りいただけます。

「絞りに柚子酢の正月祝い寿司」

ワラビ、椎茸、竹の子... 里山の山菜や野菜を、絞りにたての柚子酢や有機生姜、土佐ジロー卵で祝い寿司にします。



ワークショップの様子

「柚子みそ作り」

さわやかな香りの柚子みそは、ふろふき大根や湯豆腐にぴったり。土佐山の柚子で作る特製柚子みそ、できあがりはお持ち帰りいただけます。

「手作り柚子ぼん酢」

絞った柚子と昆布だしで作るオリジナルの柚子ぼん酢。冬のお鍋を一段と美味しく引き立てる特別レシピを伝授します。

講師の織田さんは、日頃よりお店でも鏡川近郊の食材を使用しているという事もあって、地元の素材の活かし方を熟知したプロ中のプロであり、その土地ならではの素材を活かした料理には、数多くのファンがいる。今回は、鏡川の落ち点をういた正月料理がテーマという事で、参加者の皆さんにも、素材のうまみを最大限に活かす方法を学んで頂けた。

地域の食材を地域ならではの料理で食す、この「里山を食す」ワークショップ。食と言うテーマに対する関心も高く、また、これからの新しい暮らし方を考えていく上でも避けては通れないテーマでもある。四季を通して、旬の食材も移り変わっていく事から、継続的に開催していきたい。



ワークショップの様子




野口勲

私たちが知らない野菜の本当の話

～タネを守ることは、生命を守ること～

動物は植物を食べ、植物は動物の助けを借りてタネを生み、移動を委ねて、生存圏を拡大してきた。

そして私たち人類の文明も、植物栽培によって生まれた。人類の歴史は、植物栽培の歴史であると言っても過言ではない。

しかし今、人間と植物の長い協調の歴史が崩れ去ろうとしている。人々が何も知らない間に、タネが地球生命の環の中から抜け落ちようとしている。

—「タネが危ない」本文より—

2012年12月16日(日)

講演会 / 9:00～12:20 (8:30 開場)
ワークショップ / 14:00～16:30

場 所：土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ
(高知県高知市土佐山桑尾 1856-1)

参加費：講演会のみ 2,000 円 (学生は 1,000 円)
ワークショップのみ 3,000 円 (学生は 2,000 円)
両方参加 4,000 円 (学生は 2,500 円)

主催：NPO法人土佐山アカデミー

講演会 + ワークショップ

—— 日本唯一の固定種専門タネ屋 ——

野口種苗研究所・野口のタネ代表

日本で唯一、固定種専門のタネ屋が語る食の未来

私たちがスーパーで手に取る野菜のほとんどは、F1(エフワン)種といって、一代限りで交配、つまり子孫を残せないタネが主です。雑性不稔(やうせいふねん)という形質でできないタネをかけ合わせた種からは、苗が最大でもそろった同じ野菜がとれます。大量生産・大量消費時代の要請からF1種は世界中に普及しました。子孫を残さない遺伝子固定の野菜が、無限に増殖して、世界中の人々が食べていることを、どれだけの人々が知っているのか、いのちをつなぐことができない野菜たちを、救いもなく私たちも食べているのです。日本で唯一、固定種専門のタネ屋を営み、新聞、雑誌をはじめ、全国から注目される野口勲さんが語るタネの真実からは、知られざる食べ物、農業、生命の未来が見えてきます。

一粒万倍の光と影

一粒万倍という言葉を知っていますか？
一粒のタネは、1年後に約1万倍に増え、2年後はその1万倍で1億粒。3年後には1兆粒、4年後は1京粒にもなります。健康な一粒のタネは宇宙規模の生命力を持っています。

かつて、世界中の農民が、自家採種をしていました。つまり、タネから野菜を育て、その年よくできた野菜からタネを選び、翌年そのタネを種く、タネ採りを続けることで、いのちが伝わり、その土地ならではの味と生命エネルギーに満ちた伝統野菜が生れていったのです。自家採種を繰り返してきた固定種は、生命未来の可能性を秘めたタネです。ワークショップでは、野口さんと共に、実際に固定種やF1種の野菜を食べ比べながら、タネと食の可能性について、さらに掘り下げたお話を伺います。

当日のスケジュール：

講演会 / 9:00～12:20 (8:30 開場)
ワークショップ / 14:00～16:30
※ワークショップ定員30名

参加料：

講演会のみ参加 2,000円(学生 1,000円)
ワークショップのみ参加 3,000円(学生 2,000円)
全日参加 4,000円(学生 2,500円)

応募方法：

[お名前/電話番号/ご住所/参加コース(講演会のみ・ワークショップのみ・両方)]をお答えの上、下記連絡先までお申し込み下さい。お申し込み後1週間以内、メールでお申し込み、お申し込みの状況について、電話でお知らせし、当日に案内、開場することになります。

締め切り：定員に達し次第締め切りとさせていただきます。お問い合わせ下さい。

野口 勲 (のぐち いくお)

野口種苗研究所(埼玉県熊谷市)代表。1944年東京府豊島区生まれ。野口3代にたつた日本の伝統野菜の保存と生産を志す。固定種・雑性不稔野菜の生産、消費を促す活動。2010年山崎組の固定種野菜をいう「食の未来」の活動。2012年山崎組の固定種野菜をいう「食の未来」の活動。2012年山崎組の固定種野菜をいう「食の未来」の活動。2012年山崎組の固定種野菜をいう「食の未来」の活動。

TEL: 088-895-2033 MAIL: contact@tosayama.org
(平日 8:30～18:00)



土佐山アカデミーは、自然と調和した豊かな暮らしと社会のあり方を形にするために、新たな出会いやアイデアを生み出す学びの場です。

2012年12月16日(日)

講演会 / 9:00～12:20 (8:30 開場)
ワークショップ / 14:00～16:30

場 所：土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ
(高知県高知市土佐山桑尾 1856-1)

主催：NPO法人土佐山アカデミー

<http://tosayamaacademy.org>

私たちが知らない野菜の本当の話～タネを守ることは、生命を守ること～

開催日時:平成24年12月16日(日) 9:00～12:20(講演会)／14:00～16:30(ワークショップ)

開催場所:土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ

参加人数:73人(講演会とワークショップの参加者の合計)

講師:野口 勲

野口種苗研究所(埼玉県飯能市)代表。1944年東京都青梅市生まれ。親子3代にわたり日本の自給野菜作りを支えてきた在来種・固定種を扱うタネ屋。家業を継ぐ前は手塚治虫の担当編集者という異色の経歴。2008年山崎記念農業賞受賞。著者に「いのちの種を未来に」(創森社)、「タネが危ない」(日経新聞出版社)

内容:

日本で唯一、固定種専門のタネ屋を営み、新聞、雑誌をはじめ、全国から注目される野口勲さんをお招きしての講演会、ならびにワークショップを開催。タネのお話から、知られざる食べ物、農業、生命の未来を読み解いていきました。

前半の講演会では、種の現状について野口さんにお話して頂きました。かつて、世界中の農民が、自家採種をしていたそうです。つまり、タネから野菜を育て、その年よくできた野菜からタネを採り、翌年そのタネを蒔くということで、タネ採りを続けることで、いのちが巡り、その土地ならではの味と生命エネルギーに満ちた伝統野菜が生まれていったということです。

しかし、現在私たちがスーパーで手に取る野菜のほとんどは、F1(エフワン)種といって、一世代限りの交配種、つまり子孫を残せないタネからできています。雄性不稔(ゆうせいふねん)という花粉のできないタネをかけあわせたF1種からは、品質も大きさもそろった同じ野菜がたくさん取れるのです。大量生産・大量消費時代の要請からF1種は世界中に拡がりました。子孫を残せない遺伝子異常の野菜が、無限に殖されて、世界中の人々が食べていることを、知っている人はまだまだ少なく、野口さんは、そうした種を取り巻く現状を、非常に分かり易く、お話してくれました。

後半のワークショップでは、種あてクイズや、固定種・在来種の野菜と、日頃スーパーなどで見かける、F1種の野菜の食べ比べなどを交えながら、固定種を繋いでいくために、私たちに何ができるのか、などを参加者の皆さんとともに深く掘り下げていきました。

やはり、種を巡るこうした状況をひとりでも多くの人に知ってもらう事が、第一歩であり、そのためには私たちひとりひとりが、私たちの暮らしの土台を支えている「食」というテーマと真剣に向かい合わなければならない、と感じさせる時間でした。単に種を保存すると言う事ではなく、それに付随する技や知恵などの文化もつなげていくことが、現代を生きる今の世代に求められています。



講演会の様子



ワークショップの様子



土佐山アカデミー巡回プログラム in 岡山

開催日時:平成25年2月10日(日) 18:30~20:30

開催場所:岡山シティミュージアム

参加人数:17人

講師:東 大史

課題先進地域である中山間地域での地域振興に可能性を感じ、先進地域として活発に活動していた岡山県美作市に2010年より移住、棚田再生を中心とした中山間地域農業の集落営農化や都市農村交流の企画、自然エネルギー導入など様々な案件の実用化に携わる。

実際に現場発の事業企画を立案しながら、中山間地域をはじめとした日本のローカルに普遍的な課題解決モデルを提案することを目指している。

内容:

土佐山アカデミーのチームメンバーが全国各地を訪れ、多彩なゲストと共に、「次の百年のために今、私たちができること」という共通テーマを、地域、ナリワイ、自然など、様々な切り口から掘り下げていく、全国巡回プログラムの一環として開催。2013年4月開講の土佐山アカデミー春期滞在型プログラム(3ヶ月)についても紹介した他、メンバーと参加者の皆さんが直接意見交換できる時間も設け、土佐山アカデミーのエッセンスを感じられる時間をゲスト講師の東さんとともに創り上げていきました。

美作市の地域おこし協力隊(MLAT)の一員として、上山集落の棚田再生プロジェクトに取り組んできた東さんの活動の原点は、環境問題への解決策の提案と実践だと言う事で、自然と人間との関係を見つめ直す事に軸を置く、私たち土佐山アカデミーと共有するビジョンをトークセッションの中では主に掘り下げていきました。

会場には他のMLATのメンバーも駆けつけてくれ、参加者の方々を巻き込んで意見交換をする場面も多々あったりと、土佐山アカデミーにとって初めてのプログラム開催となる岡山での新たなつながりづくりの場としても機能していたように思います。



会場の様子

岡山と高知は地理的にも比較的近く、また地域での課題やそれに対する取り組みなど、共有する事でお互いのメリットとなる点も数多くある事から、今後もこうした巡回プログラムは続けていきたいと思っています。

土佐山アカデミー巡回プログラム in 東京

開催日時:平成25年2月12日(火) 19:45~22:00

開催場所:渋谷 co-ba

参加人数:20人

講師:友廣 裕一

一般社団法人つむぎや代表。早稲田大学卒業後「ムラアカリをゆく」と題し全国70以上の農山漁村を訪ね、現地の仕事と暮らしに触れる。その後、各地で求められるままに役割を果たしていく中で、農林水産さまざまな仕事にかかわる。東日本大震災後は「つなプロ」エリアマネージャーとして避難所のアセスメントを行ったのち、石巻市・牡鹿半島の女性達と役割づくりやコミュニティ再生を目指して、地域資源を活用した事業「OCICA」「ぼっぼら食堂」を2つの浜にて立ち上げる。

内容:

土佐山アカデミーのチームメンバーが全国各地を訪れ、多彩なゲストと共に、「次の百年のために今、私たちができること」という共通テーマを、地域、ナリワイ、自然など、様々な切り口から掘り下げていく、全国巡回プログラムの一環として開催。2013年4月開講の土佐山アカデミー春期滞在型プログラム(3ヶ月)についても紹介した他、メンバーと参加者の皆さんが直接意見交換できる時間も設け、土佐山アカデミーのエッセンスを感じられる時間をゲスト講師の友廣さんとともに創り上げていきました。

約20名の方が来てくださり、皆さん「今後、地域と関わって(地域で)活動していきたい」という方がほとんど。東北や各地で活動する友廣さん、渋谷から土佐山に拠点を移し活動するアカデミーの林の経験談も交えながら、地域の可能性や地域との関わり方について等、会場で意見を交わしました。

その中でも印象的だった友廣さんの言葉。「マクロな視点で語っても意味がない。そこにいる一人一人と僕の関係性でしかない。」

特に中山間などの地域では、過疎高齢化が危惧され、限界集落

という言葉すらあります。マクロな視点と数字で分析される地域の現状がある一方、中に入ってみると、そこにはいろんな人がいて、地域にも様々な一面があります。限界集落(65歳以上が50%以上の地域)に住む、どれだけの人が本当に限界と思っているのでしょうか。中に入ってみないと、見えない世界があります。そんな事を深く考えられた時間となりました。



会場の様子

土佐山アカデミー巡回プログラム in 福岡

開催日時:平成25年2月17日(日) 15:30~16:00

開催場所:casa Fukuoka showroom

参加人数:15人

講師:松崎 宏史

Studio Kura 代表。1979年福岡県糸島市生まれ。広島市立大学芸術学部油絵科 卒業後、ドイツハノーバー専科大学で学ぶ。ヨーロッパを中心に世界各地で展示を行う。2009年アートカンパニー(株)Studio Kuraを設立。糸島から世界へ文化発信をモットーにアーティスト・イン・レジデンス、美術教育、美術制作事業を手がける。糸島芸術祭「糸島芸農」実行委員長。

内容：

土佐山アカデミーのチームメンバーが全国各地を訪れ、多彩なゲストと共に、「次の百年のために今、私たちができること」という共通テーマを、地域、ナリワイ、自然など、様々な切り口から掘り下げていく、全国巡回プログラムの一環として開催。2013年4月開講の土佐山アカデミー春期滞在型プログラム(3ヶ月)についても紹介した他、メンバーと参加者の皆さんが直接意見交換できる時間も設け、土佐山アカデミーのエッセンスを感じられる時間をゲスト講師の松崎さんとともに創り上げていきました。



会場の様子

糸島芸農など、芸術と農の新しい関わり方を提案する活動をされている松崎さんは、自身の活動を「ジェネレイティブアート」に例えてお話されるなど、土佐山アカデミーの仕組みと共通項が多い内容でした。受講希望者だけでなく、仕組みづくりの側面からアカデミーの話を聞きたいと参加された方が多かったように思います。

土佐山アカデミー巡回プログラム in 京都

開催日時:平成25年2月25日(月) 19:00~21:00

開催場所:Black bird White bird.

参加人数:10人

講師:伊藤 洋志

ナリワイ実践者。香川県丸亀市育ち。京都大学大学院修了。大小様々な仕事を組み合わせて生計を建てるナリワイ実践者。大学院在籍時に、全国の職人さんの見習いをしながら、弟子の技能の身につけ方と独立生計の建て方を調査。手仕事一本ではなく、農業や素材栽培も含め生業を営む染織工房が、いきいきと仕事をしている様子を見て、専業よりも複業的生活の可能性を感じる。大学院卒業後、ベンチャーに参加。就職サイトや雑誌を立ち上げるも、肌荒れのため退職。2007年より、個人が小さい元手ではじめられる頭と体をつかう仕事をテーマにナリワイづくりを開始。現在、シェアアトリエ「スタジオ4」や、京都の一棟貸し宿「古今燕」などの運営、「モンゴル武者修行ツアー」、「熊野暮らしデザインスクール」などのワークショップを企画する他、自由大学で講義を担当(不定期)。著書に「ナリワイをつくる」。

内容：

土佐山アカデミーのチームメンバーが全国各地を訪れ、多彩なゲストと共に、「次の百年のために今、私たちができること」という共通テーマを、地域、ナリワイ、自然など、様々な切り口から掘り下げていく、全国巡回プログラムの一環として開催。2013年4月開講の土佐山アカデミー春期滞在型プログラム(3ヶ月)についても紹介した他、メンバーと参加者の皆さんが直接意見交換できる時間も設け、土佐山アカデミーのエッセンスを感じられる時間をゲスト講師の伊藤さんとともに創り上げていきました。



会場の様子

土佐山アカデミーでは、何度も講義を行ってもらっているナリワイの伊藤さんをお招きしての京都プログラム。参加者の中には、今後の仕事についてどうしていくか考えている方も多く、「ナリワイ」という独自の考え方に、感銘を受けている方も多かったように思います。会終了時には、2名の方が3ヶ月プログラムへ参加したいと言ってくださり、アカデミーの世界観を幅広い方々に向けて表現すると言う意味でも、受講希望者を募るという意味でも、非常に収穫の多いイベントになりました。

雑貨具を作ろう! 2 木を使ったモノ作り・ワークショップ

開催日時:平成25年2月17日(日) 10:00~16:00

開催場所:土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ

参加人数:12人

講師:足利 成

日本、フランス、韓国、カナダで約200棟の建築に関わり、家造りを150人以上に教える。考え方を大事にした建築、何のために建てますか?そこでどのような生活をしますか?等をもとに、形、技術を考えていく家造りを実践。高知市内に自宅もセルフビルドし、2012年には3軒のカフェのオープンを手掛ける。住む人が主役の街づくり、高知パリ化計画を提唱中。

内容:

大好評だった雑貨具ワークショップの第2弾。今回のテーマは、スツール作り。お気に入りの布を使って、ちょっとした読書や腰掛けなどに使える、世界にひとつだけのスツール作りにチャレンジしました。

ものづくりをするにあたって、ポイントとなるのがやはりどれだけ自分なりのアクセントを加えられる事ができるかという点ですが、今回のスツールづくりでは、形や足の長さを好きなようにカスタマイズできたり、自分の好きな模様の布や古着を再利用したりと、文字通り、世界にひとつだけの作品をつくって頂きました。

雑貨具を作ろう! vol.2
木を使ったモノ作りワークショップ

講師 **足利 成**

本物に触れる。
木に触れる。
自分で作る。

雑貨店にあるような家具を、
自分で作ってませんか?

2013年2月17日(日)
10:00~16:00 (お弁当をご持参下さい。)

場 所: 土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ
(高知県高知市土佐山夢 1856-1)

参加費 **3,500円** (材料費込み)
定員 **15名** (定員に達し次第締め)

★作った椅子は各自お持ち帰り頂けます
★動きやすく汚れても良い嗜好でいらして下さい
★お弁当をご持参下さい
★50センチ×50センチの布2枚
(スツールの座る部分に使います。
お気に入りの布や古着など、お好きな
布み合わせてお持ちください)

大好評だった雑貨具ワークショップの第2弾!

今回のテーマは、スツール作り。
お気に入りの布を使って、世界にひとつのスツール作りにチャレンジします。ちょっとした読書や腰掛け、お部屋のアクセントにも!

講師は建築家の足利成さん。
自分の手を使って作る体験は、経験になり、知恵になり、次なるひらめきにつながります。身近な家具作りを楽しみながら、木の使い方やモノ作りの知恵を身に付けちゃいましょう!

第二弾という事もあって前回に引き続いて参加して下さいましたが、つくる物が違うと、行程もずいぶん変わってきます。苦労しながら、でも皆さんとても楽しそうに取り組んでいて、いつまでも大切に使える品を持って帰ってもらえたと思います。



ワークショップの様子

土佐山草木染めワークショップ - 森の一着をつくる！

開催日時:平成25年2月23日(土)

12:00~16:30

開催場所:土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ

参加人数:23人

講師:石井久弥子

空と大地の教室「つきのわぐま」代表。群馬に生まれ、自然の中で天真爛漫に育つ。大学卒業後、渡英。植物学とガーデニングを学び、庭師になる。野草菓草の生活への取り入れ方を学ぶ傍ら、ケンブリッジ大学植物園にて植物学を学ぶ。ロンドンのChelsea Physic Gardenにてガーデンデザインを学ぶ。個人邸やギャラリーの庭などのデザインを手がける。Student of the Year他、各賞を受賞しデザインコース卒業。帰国。その後、渋谷Bunkamura ザ・ミュージアムにて、植物画「ルドゥーテ展」に関わり、植物学者牧野富太郎氏の存在を知り、日本の植物を知るべく、花屋修行を始める。後に、裏高尾に移住し、2008年より、空と大地の教室「つきのわぐま」を発足。様々な自然体験プログラムを展開中。



2013年2月23日(土) 12:00-16:30

日程: 2012年2月23日(土) 12:00-16:30
集合場所: 土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ (高知県高知市土佐山島尾1956-1)
参加費: 3,000円 (Tシャツ1枚・下駄履代金含む)
※Tシャツ1枚追加につき、+900円となります。ご希望の方は、応募の際、Tシャツのサイズと枚数をお知らせください。



内容:

森で採取した材料で、自分だけの森の色を見つける、という事をテーマとし、清流鏡川源流の、豊かな自然溢れる土佐山にて、空と大地の教室「つきのわぐま」の石井久弥子さんをお招きして、土佐山草木染めワークショップを開催しました。



用意された材料を使うのではなく、実際に森に入り、散策しながら、ひとりひとりが自分たちの手で、染料となる材料を集めていくというのが、土佐山の豊かなフィールドならではのポイント。普段何気なく見ている植物や地面に落ちている枝や葉っぱも、ものづくりの材料になるのだという事を実感して頂けたのではないかと思います。

今回はTシャツを染める事に挑戦し、絞り染めや板染め防染染めなどの技法を用いて自由に楽しくデザインしていただき、森と自分の感性の間に生まれた、土佐山オリジナルの色をお持ち帰り頂きました。



ワークショップの様子

土佐山シネマトーク

開催場所: 高知県立美術館ホール

内容:

この「土佐山シネマトーク」では「自然とともに生きる文化を育む」という私たちのビジョンと、想いを同じくする良質の映画を世界中から選び出し、映画を教材として用いたプログラム・シリーズを開催しました。参加者の皆さんとともに、私たちの社会とその未来について考えるきっかけをつくっていきたいと思います。

「幸せの経済学」

3/7(木) 19:00~21:00

参加人数: 55人

あなたは、「豊かさ」をどんなものさしではかりますか？

行き過ぎたグローバル経済から脱却し、持続可能で幸せな暮らしをどう創っていきけるのか。

地域の力を取り戻すローカリゼーションの促進が、切り離されてしまった人と人、人と自然とのつながりを取り戻し、地域社会の絆を強めていく。そのヒントは私たちの地域文化の中にもあるのではないのでしょうか。この映画はその気付きを与えてくれるでしょう。

「よみがえりのレシピ」 3/14(木) 19:00~21:00

参加人数: 72人

おいしくて、そして心効くドキュメンタリー映画。

何十年、何百年という世代を超え、味、香り、手触り、さらに栽培方法、調理方法を現代にありありと伝える「生きた文化財」である在来作物。この映画は、在来作物が地域によみがえり、豊かな食を通して人の絆を深ていく姿を、日本や世界で起きている食や農業の問題への処方箋(レシピ)として伝えてくれます。

「セヴァンの地球のなおり方」 3/21(木) 19:00~21:00

参加人数: 55人

どうやってなおすかわからないものを、壊し続けるのはもうやめてください。

1992年、リオデジャネイロで開催された地球サミットで、12歳の少女、セヴァン・スズキは大人たちに環境破壊を止めるよう訴えかけました。その伝説のスピーチから20年。もうすぐ母親となるセヴァンが今、世界に伝えたいこと、そして彼女の声に応えるかのように、日本とフランスで傷ついた地球と向き合い続ける人々の姿を追ったドキュメンタリー。

場所: 高知県立美術館ホール
時間: 19:00 (開場18:30)
入場料 (各回):
1,300円 (前売り)
1,500円 (当日)
1,000円 (高校生以下)

2018
3/7(木)
幸せの経済学

3/14(木)
よみがえりのレシピ

3/21(木)
セヴァンの地球のなおり方

これからの社会づくりのヒント探し。
土佐山シネマトーク、はじまります。

TOSAYAMA CINEMA



会場の様子



宙(そら)のがっこう 五感で楽しむ星空ワークショップ

開催日時:平成25年3月9日(土)

18:00～19:30(第一部)

19:30～21:00(第二部)

開催場所:

土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ

参加人数:78人

(第一部と第二部の参加者の合計)

講師:かわいじゅんこ

プラネタリウムを使ったイベントを五藤光学研究所で始める。2009年にはフリーのプラネタリウムプランナーとして活動開始。以来「プラネタリウムの広報宣伝マン」を自負し、プラネタリウムを広く一般の人々に広めるためのイベントを数々行う。移動式プラネタリウムや天文に関するワークショップを、ショッピングモールや水族館など意表をつく場所でのイベントを開催し、多くの人々に星空を見上げる楽しさを広げ、天文好きの底上げをするために、初心者向け、女性向けのワークショップや講演を企画している。

内容:

日本で唯一のプラネタリウム・プランナー、かわいじゅんこさんをお迎えし、土佐山の満天の星を眺めながら、宙の世界の不思議を堪能するワークショップを開催。京都や広島、徳島、と遠方から参加してくださった方や、親子で参加してくださった方も多く、賑やかで楽しい時間になりました。

3月10日はパンスターズ彗星が太陽に一番近づく日と言われていたり、この季節頃から、星の一番の見ごろになると言われています。第一部では、今年の天文現象の見所から、今の季節の星の探し方、楽しみ方などのお話を伺い、その後は天体望遠鏡で、実際に木星や「すばる」などを観察しました。天体望遠鏡は、こまめに調整しないと、あっという間に何も見えなくなってしまう、地球が「けっこう早く」動いていることも実感。

「あー!」「わぁ～」という歓声が、暗闇のあちこちから聞こえてきたりと、お子さん連れの参加者の方々が多かったのが印象的で、土佐山の豊かな自然を教材とした子ども向けプログラムに対するニーズの高さを表したように思います。



ワークショップの様子

第二部では、森の香り、空気の湿り気、星の明かりや鳥や虫の声など、五感で感じる天体観測に加え、講師のかわいさんによるギリシャ神話などのお話を交えながら星空を眺めました。ジビエ料理のシシ汁や、その他の郷土料理、そして七輪を用いた炭焙煎珈琲などを楽しんでもらいながら、満点の星空を舞台とした授業に取り組んでもらいました。

高知県には日本で唯一プラネタリウムが無いそうですが、それだけ星がきれいに見えるという豊かさの証でもあります。無いものを探すのではなく、既にある宝物を見つめ直す、良い機会を提供できたと思います。

土と炎のワークショップ＜七輪陶芸＞

開催日時:平成25年3月16日(土) 10:30～12:00(形成・乾燥)／17日(日) 9:30～12:00(焼き上げ)

開催場所:土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ

参加人数:5人



2013年3月16日(土)・17日(日) 場 所:土佐山夢産地パーク
参加費:5,800円(全二日)



今回のワークショップでは木炭や火に親しんでもらう、ということをテーマに、七輪を用いたものづくりに取り組みました。七輪陶芸とは、その名の通り、七輪で陶器を焼く陶芸です。おちょこや箸置きなど、自分で形づくった品々を、手軽に手に入る七輪を使って、土佐山の炭で実際に焼き上げる、その手法を学びんでいただきました。

七輪陶芸の特徴は、窯で焼く陶芸と違い、真っ赤に焼ける土の様子を見る事ができるところ。炭から染み出る天然の釉薬が、予想できない色や模様を浮かび上がらせてくれるのもその醍醐味です。

講師の西岡さんが開発した、誰もが簡単に炭に着火する事ができる炭の着火法から始まったワークショップは、普段はバーベキューの時にしか炭を目にする事が無いという参加者の皆さんに、手軽に炭を利用するきっかけを提供できたのではないかと思います。全てがガスや電気に置き換わり、直火を見る事さえ珍しくなってしまう現代において、七輪から火柱が立ち上がる光景は、参加してくださった方々にとっては非常に新鮮で、歓声があがる場面も多々ありました。土佐山が誇る山林資源である木炭を使ったものづくりは、初めての試みでしたが、皆さんの反応も良く、次につながる内容になったと思います。

講師:西岡 謙一

西岡燃料株式会社代表取締役社長。「土佐炭道」(とさたんどう)の楽しさをひろめるべく幅広く活動中。炭焙煎の珈琲を振る舞いながら、定期的に開催している「土佐炭炭カフェ」は、コミュニティスペースとして、毎回多くの人が集い、炭の良さを語り合う場となっている。炭火の着け方、燃やし方、あぶり方、消し方、炭陶芸を始めとする、炭の様々な活用法などに精通しており、炭のプロとして様々なメディアでも紹介されている。

内容:

かつて木炭が燃料の主役を担っていた時代、土佐山は炭焼きの村でした。急峻な山々の中に入っていくと、先人たちが切り開いてきた森の中に残される、炭窯の跡を今でも目にする事ができます。職業として炭焼きを行う人は少なくなりましたが、その知恵と技は今でも継承されています。



ワークショップの様子



自分 で 仕事 を つ く る 方 法 2 を

伊藤 洋志
講演会＋ワークショップ



国民総自営業時代、到来です。
人気シリーズ第二弾！
「ナリワイをつくる」を、お招きして、
著者 伊藤洋志さんをお招きして、
講演会＋ワークショップを開催いたします。
今の仕事十年後大丈夫かな？など
今の働き方に違和感のある方、必見です。

「自分で仕事をつくる方法1」に参加された方へ
昨年11月に開催された「自分で仕事をつくる方法1」に参加された方には、今後のワークショップをおススメします。今回2弾では、「ナリワイのタネ探し」に加え、ナリワイを始めるための「具体的なノウハウ」まで深掘りしていきます！

2013年3月23日(土)

講演会 / 10:00～12:00 (9:30 開場)
ワークショップ / 13:30～16:30 ※少人数制 15 名限定

ところ：土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ
参加費：講演会のみ / 2,000 円 (学生は 1,000 円)
ワークショップのみ / 4,000 円 (学生は 3,000 円)
両方参加 / 5,000 円 (学生は 3,500 円)

主催：NPO法人 土佐山アカデミー

<http://tosayamaacademy.org>

そもそも仕事は自分でつくるものだった。

大正9年の国勢調査で申告された職業は約3万5000種。現在の厚生労働省の「日本標準職業分類」によれば、いまや2167職種。わずかに90年程度前には、はるかに多様な職業がありました。しかし、戦後に「株式会社日本」は多様性を切り捨て標準を絞り込むことで、高度経済成長を遂げたのです。いつの間にか、仕事といえば就職、つまり会社で一つの仕事をやる、という考え方が常識になってしまいました。そもそも仕事はもっと多様であり、それを各自が組み合わせて生活を組み立てていました。経済成長できたのはいい面もありましたが、2012年3月の時点で大手リストラに年間1万人の自営業、友人に数回いるのも同じくはいくらもいます。これはわずか50年間で急激に仕事の多様性を失った私たちの置かれた状況です。日本社会はどこへ行くのか？今回の講演の場は、日本の働き方の多様性を根源から探り、参加者全員で仕事の未来を考える場のように考えています。

仕事も、ほしい物も、自分でつくるのは面白い！

実はこの2010年代というのは既に仕事は自分でつくるのが当たり前になった時代です。いま未来が見えていく仕事の全ては与えられた仕事ではなく、各自が作ってきた仕事なのです。実は2010年の必要性の高い仕事の上位10位は、2004年にはまだ存在していませんでした。つまり自分で作った仕事です。かつこきく言えば、未来の仕事、今や個人が低コストで使えるインフラが発達してきて一見、どのような職に就いても事業や生活の糧に不足しなくなっています。つまり、各自が自分でできる仕事をつくり出すというスタイルになってきたということです。【時代の変化を自分の生活の中心から見て、働くほど自分が「生活」が充実し、働くがもたらす仕事は必ずしもつくれるものというテーマのもと、しなやかに生き、柔軟に働く方法―「ナリワイをつくる」の著者である伊藤さんと一緒に、ナリワイ(仕事)のタネ探し、ナリワイを始めるための「具体的なノウハウ」を共有する少人数制ワークショップを開催します。

こんな方に特にオススメです！

自分で遊びを考えるのが得意な方、自己満足ではない社会貢献をしたい方、自分で仕事をつくりたい、起業したい方、会社員生活に違和感を感じている方、10、20年後の未来に不安を感じる方、自己アピールが苦手、「セルフブランディング」なんてできないという方、就職活動に行き詰っている学生の方など。

こんな方には役に立てないかも・・・

起業してタイムパルをなぜ倒したかという方、得意さや社会的なステータスを重視する方、できるだけ年収を高めることに興味がある方、不可得を得たい方、「すべき」という言葉が好きなお方、これらの方にはお役に立てない気がします。

当日のスケジュール：
講演会 / 10:00～12:00 (9:30 開場)
ワークショップ / 13:30～16:30 ※定員15名

参加費：
講演会のみ参加 / 2,000 円(学生1,000 円)
ワークショップのみ参加 / 4,000 円(学生3,000 円)
全日参加 / 5,000 円(学生3,500 円)

必要方法：
件名を「ナリワイ2」とし、【お名前／電話番号／ご住所／参加コース】をお知らせの上、メール contact@tosayama.org へ電話 **088-895-2033** (平日10:00～18:00)までお申し込み下さい。
※お申し込み人数超過は、まっくすの受付となります。参加に当たってのご案内・ご説明のために、参加に際しては、随時ご連絡させていただきます。



2013年3月23日(土)

講演会 / 10:00～12:00 (9:30 開場)
ワークショップ / 13:30～16:30

ところ：土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ
主催：NPO法人 土佐山アカデミー
お問い合わせ：contact@tosayama.org
088-895-2033
<http://tosayamaacademy.org>

自分で仕事<ナリワイ>をつくる方法2

開催日時：平成25年3月23日(土) 10:00～12:00(講演会)／13:30～16:30 (ワークショップ)

開催場所：土佐山夢産地パーク交流館・かわせみ

参加人数：40人(講演会とワークショップの参加者の合計)

講師：伊藤 洋志

1979年生まれ。香川県丸亀市育ち。京都大学大学院修了。大小様々な仕事を組み合わせて生計を建てるナリワイ実践者。大学院在籍時に、全国の職人さんの見習いをしながら、弟子の技能の身につけ方と独立生計の建て方を調査。手仕事一本ではなく、農業や素材栽培も含め生業を営む染織工房が、いきいきと仕事をしている様子を見て、専業よりも複業的生活の可能性を感じる。大学院卒業後、ベンチャーに参加。就職サイトや雑誌を立ち上げるも、肌荒れのため退職。2007年より、個人が小さい元手ではじめられる頭と体をつかう仕事をテーマにナリワイづくりを開始。現在、シェアアトリエ「スタジオ4」や、京都の一棟貸し宿「古今燕」などの運営、「モンゴル武者修行ツアー」、「熊野暮らしデザインスクール」などのワークショップを企画する他、自由大学で講義を担当(不定期)。著書に「ナリワイをつくる」。



講演会の様子

内容：

前回大好評だった「自分で仕事＜ナリワイ＞をつくる方法」に続き、第二弾「自分で仕事＜ナリワイ＞をつくる方法2」を開催しました。今回も、地元高知だけでなく、兵庫、広島、大阪、香川と遠方から多くの方にご参加いただきました。

第二弾となった今回は、ナリワイの考え方に加え、ナリワイづくりに必要な具体的なノウハウを共有。その後それぞれが考えるナリワイアイデアをグループワークで話し合い、ナリワイづくりに向けた今後のスケジュールも決め、ワークショップは無事終了しました。

このワークショップで出会った、様々なバックグラウンドを持つ参加者全員で、今後の進捗を共有しながら、「土佐山ナリワイネットワーク」として、積極的にナリワイの創出に取り組んでいきたいと思っています。



ワークショップの様子

創造する街のつくり方

開催日時：平成25年3月30日（土） 13:30～15:00

開催場所：高知市はりまや橋商店街イベント広場

参加人数：18人

講師：寺井 元一

兵庫県生まれ。灘高等学校卒業。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。同大学院政治学研究科にて、人間の意識構造と投票行動の関係を、統計解析を用い研究してきた。また大学時代から代議士事務所スタッフとして活動し、政策勉強会の代表などを務めた。大学院中退と並行して2002年にKOMPOSITIONを起業し、渋谷を拠点にアートやスポーツに関連した支援事業を展開。大手スポーツメーカーや渋谷区・横浜市などと連携し、ピルの落書き清掃と壁画支援を絡めた事業などでメディアからも注目された。全振連理事長・桑島氏からの依頼を受けた企画業務を契機に、商店街など地域活性の分野でも活動するようになり、2010年に再度の起業を行なって株式会社まちづくりクリエイティブを設立。文化芸術などソフトコンテンツの集積、および公共空間活用のイベント企画を組み合わせ、新たな地域活性ビジネスを展開している。現在は千葉県・松戸駅前にて第一弾のモデル活動「MAD Cityプロジェクト」を実施中。



会場の様子

(株)まちづくりクリエイティブ代表

寺井元一

講演会

創造する街の方



こんなに面白い街づくりがあった!

千葉県松戸市の一角で、クリエイターやアーティストの誘致や住居や店舗などの再生に取り組み、これまでにない新たな街づくりに取り組む「MAD Cityプロジェクト」より寺井元一さんをお招きして、講演会を開催します!!

2013年3月30日(土)

講演会 / 13:30~15:00 (13:00 開場)

ところ：はりまや橋商店街イベント広場
参加費：講演会 / 2,000 円 (学生無料)

主催：NPO法人 土佐山アカデミー



TOSAYAMA
ACADEMY

<http://tosayamaacademy.org>

**今、街づくりに取り組んでいる人、
自分の住んでいる街を面白くしたい人、
必見です!**

空き店舗増、文化財の保護、防犯・防災、地域コミュニティの高齢化など、地方都市や田舎が抱える問題を解決しながら、創造的なまちづくりを体感しませんか?

寺井元一 プロフィール

1977年、兵庫県生まれ。灘高等学校卒業。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。同大学院政治学研究科にて、人間の意識構造と投票行動の関係を、統計解析を用いて研究してきた。また大学時代から代議士事務所スタッフとして活動し、政策勉強会の代表などを務めた。大学院中退と並行して2002年にKOMPOSITIONを起業し、渋谷を拠点にアートやスポーツに関連した支援事業を展開。大手スポーツメーカーや渋谷区・横浜市などと連携し、ビルの廃棄や清掃と壁画支援を結んだ事業などでメディアからも注目された。全振連理事長・森島氏からの依頼を受けた企画業務を契機に、商店街など地域活性の分野でも活動するようになり、2010年に再度の起業を行って株式会社まちづくりクリエイティブを設立。文化芸術などソフトコンテンツの集積、および公共空間活用イベント企画を組み合わせ、新たな地域活性ビジネスを展開している。現在は千葉県・松戸駅前にて第一弾のモデル活動「MAD Cityプロジェクト」を実施中。

当日のスケジュール：
講演会 / 13:30~15:00 (13:00開場)
参加料：2,000円(学生無料)

応募方法：

件名を「創造する街のつくり方」とし、[お名前/ご連絡先/ご住所]をお済の上、メール contact@tosayama.org が電話 088-895-2033 (平日 10:00~18:00) までお申し込み下さい。

締め切り：

定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

※お申し込み後、お申し込みの状況により、参加に当たっての選考・ご都合のためお断り、参加を断ることはあります。



2013年3月30日(土)

講演会 / 13:30~15:00 (13:00 開場)



TOSAYAMA
ACADEMY

お申し込み・お問い合わせは NPO法人土佐山アカデミーまで。

TEL: 088-895-2033 MAIL: contact@tosayama.org
(平 日 1 0 : 0 0 ~ 1 8 : 0 0)

土佐山アカデミーは、自然と調和した豊かな暮らしと社会のあり方を形にするために、新たな出会いやアイデアを生み出す学びの場です。

内容：

魅力的な人々を「まち」に集めることで、寛容で自立的な独自の「まち」を創り出す事をテーマに活動されている、寺井元一さんをお迎えしての講演会を開催しました。会場は高知市はりまや橋商店街イベント広場。普段は土佐山地域を主なフィールドとして活動している土佐山アカデミーの出張プログラムとして、主に市内から集った参加者の皆さんとともに高知の街の未来を考えていく時間を持ちました。

空き店舗増、文化財の保護、防犯・防災、地域コミュニティの高齢化など、地方都市や田舎が抱える問題は、現在日本の地方都市の至る所で見られている現象です。この問題を解決しながら、「創造的なまちづくり」に実践的に取り組んでいる寺井さんのお話から学ぶところは多いにあったと思います。

加えて、全国初の木造アーケードを誇る、はりまやばし商店街との今後の連携の可能性も広がり、今後はより多くの人を巻き込みながら、街と山を包括したクリエイティブな地域づくりに取り組んでいきたいと思っています。

特定非営利活動法人 土佐山アカデミー

MAIL: info@tosayama.org

TEL: 088-895-2033

〒781-3221 高知県高知市土佐山桑尾1856-1

<http://tosayamaacademy.org>

© 2013 TOSAYAMA ACADEMY